

台風18号による強風と豪雨に見舞われた10月5日夜、大多喜町内の山間部で80代の男性が一時行方不明になり、県警に救助されていたことが19日までに分かった。担当した県警第2機動

隊は専門の隊員が川と陸で「2方面作戦」を実施。互いの持ち味を生かした冷静な連携作業で男性の命を救った。県警の担当者は「日ごろの訓練成果が発揮できた」と振り返った。

県警2機 スキューバ、レンジャー連携

県警によると、男性の妻から同月5日午後9時ごろ、「夫がいない」と勝浦署に通報があった。男性は自宅周辺が冠水したことがあると聞き、1人で先に知人宅に避難しようとしたらしい。勝浦署員が周辺を捜索したが見つからなかったため、応援を要請した。

成田付近で待機していた第2機動隊員約20人が出勤、翌6日未明から捜索を始めた。隊員たちは災害救助訓練で指導を受けた通り、一斉に声を掛けてから数十秒間静かにして救助対象者の声や物音を聞き取る方法で探したところ、同日午前3時45分ごろに男性のうめき声を確認した。しかし、付近は真っ暗な山林。男性が生存して川の近くにいることは分かったが、詳しい場所の特定まではできなかった。

そこで、スキューバを専門とする隊員らが川に入り、さ

台風18号被害

かのぼりながら捜索。増水した川にできた土だまりに男性がいるのを発見した。水量が多く川からの救出は無理と判断した同隊員は、陸上にいたレンジャー専門の隊員らに連絡。山に分け入ったレンジャー隊員がロープを伝って、男性のもとに向かった。



小湊鉄道との合同訓練でロープを使って救助対象者を引き上げる機動隊員。さまざまな状況を想定して訓練を行い、災害に備える(県警提供)

担当者「日ごろの訓練実った」

た小湊鉄道との訓練で似た状況を経験したばかり。午前5時前、隊員同士息を合わせて、救助器具に乗せた男性を約6メートル下から無事引き上げた。男性に大きなけがはなく、かすり傷程度だったという。

男性は近道をしようとして山に入り、途中で土砂ごと滑落。川の手前で止まったものの、男性がいた土砂はもろく、水面からの高さも20センチ程度しかなかった。

県警は台風による水害を想定して、スキューバとレンジャーの専門隊員でチームを組み、み方が一に備えていた。災害救助の担当者は「今回は現場で専門隊員が連携できた理想的なケース」と言及。隊員からは「訓練のおかげで冷静に最も安全で確実な救助方法を判断できた」との声が寄せられたといい、同担当者は「引き続き県民の命を救うための訓練をやっていききたい」と話した。